

## 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第2回会議 議事録

日時	平成27年12月25日(金) 午前9時30分～11時30分		場所	市役所本庁舎3階 大会議室
出席者	推進会議 委員	内田 俊宏 委員（中京大学経済学部客員教授）【座長】 山本 武司 委員（清須企業懇話会幹事） 富田 正美 委員（愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室室長） 北山 ゆり 委員（愛知県立新川高等学校校長） 舟橋 啓臣 委員（愛知医療学院短期大学学長） 山田 功 委員（中日信用金庫理事長） 平野 邦弘 委員（日本労働組合総連合会愛知県連合会尾張中地域協議会副代表）		
	清須市	副市長、企画部長、事務局（企画部企画政策課）		

### 1 開会

#### 事務局

それでは、定刻となりましたので、ただ今より、「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議第2回」を開催させていただきます。

第1回目の会議と同様、議題に入りますまで、私、清須市企画政策課長河口が進行の方を務めさせていただきます。本日の会議のスケジュールにつきましては、お手元の「次第」のとおりとなっておりますので、よろしくお願いいたします。なお、この会議につきましては2時間程度を予定しております。

それでは、「次第」の「1 開会」に移らせていただきます。

開会に当たりましては、永田副市長よりご挨拶を申し上げます。

#### ○あいさつ

##### 永田副市長

皆さん、改めましておはようございます。

本日は、本当に年末のお忙しい中、ご出席を賜りましてまことにありがとうございます。

一番新しい数字なのですけれども、12月1日の本市の人口が67,004人となりました。初めて67,000人を超えました。3町合併した平成17年が大体55,000人で、当時の春日町の人口約8,000人を加えますと63,000人ということで、この10年で約4,000人伸びたこととなります。

全国はもちろんでありますけれども、この近隣でも既に人口減少で悩んでおられる市町村が多い中、少しずつではありますが伸びているということは、大変ありがたいことだと思います。

しかし、本市もこのまま伸び続けるということはありませんので、近い将来、必ず減少に入るというふうに思っておりますけれども、減少になる時期を少しでも先延ばしにしたい。なおかつ、減少幅も少なくしていきたいということで、これからも頑張っていきたいと思っています。

本日は、これまでの調査や検討に基づきまして事務局において取りまとめました人口ビジョ

ンの素案と総合戦略の骨子案をお示しをいたしております。主に総合戦略骨子案につきまして今日は、委員の皆様からご意見をちょうだいしたいと考えております。

清須市における地方創生に向けて実効性のある総合戦略を取りまとめていきたいと考えておりますので、委員の皆様方には忌憚のないご意見、ご提案を賜りますようお願いを申し上げます。ましてご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## 2 議題 (1) 清須市人口ビジョン素案及び清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案について

### 事務局

それでは、議題に入らせていただきます。

ここからは座長の内田先生に進行の方をお願いしたいと思います。内田先生よろしくお願いいたします。

### 座長

皆さんおはようございます。中京大の内田でございます。恐縮ですが、座って議事の方を進行させていただきます。

早速ですけれども、「次第」の「2 議題」というところで「(1) 清須市人口ビジョン素案及び清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案について」議論に入ってまいりたいと思います。

まず、お手元の資料に基づいて、事務局の方から最初にまとめてご説明をいただいた後で、各委員の皆様方から順にご発言をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず最初に事務局より、本日の資料についてのご説明をお願いします。

### ○資料説明 (事務局)

### ○意見交換

#### 1) 基本目標1について

### 座長

ありがとうございました。

それでは、今事務局から説明がありました資料の内容、特に「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略(骨子案)」について議論を始めていきたいと思いますが、かなり内容が盛りだくさんということで、全体のうち、まず最初に1巡目は基本目標の1、観光分野、交流人口の拡大ということで、前回この辺り、かなり意見が多かったということで、まず基本目標1について1巡目の議論をさせていただきたいと思います。その後で、基本目標の2から4、また総合戦略全体の構成についてのご意見を頂戴したいと思います。

それでは、名簿の順ということで、最初で恐縮ですけれども、山本委員から、お1人5分程度を目安にご発言をいただきたいと思います。それでは山本委員、お願いします。

## 山本委員

山本でございます。よろしくお願ひいたします。

まずは、このたび、いろいろとご準備の方ありがとうございました。

私は、観光振興の分科会にも参加させていただきましたが、資料を見ますと、他の分科会でも、キリンビールで一杯とか、キリンビールでビアガーデンと、そういうふうに書いていただいております。意識していただいてありがとうございます。

また、今回のこの会議のつながりで、ほかの委員の方と一緒に行動を起こすといったことも出てきて、本当にこういう場に参加させていただいてよかったなど、改めて感謝申し上げます。

さて、基本目標1について意見を述べさせていただきます。大筋としては異論はないのですが、1点気になる部分があります。

それは、シビックプライドの醸成という部分でございます。観光振興の分科会でもシビックプライドの醸成、要は、僕は、私は清須市が大好きなんだというふうに思っていて人をどう増やしていくか。これは非常にキーポイントになっていくのかなというふうな話をされていて、私もすごく腹に落ちたのですが、それが施策のひとつでしかないというのは違和感がございます。

基本目標の文言までに、例えば地域資源を生かした活力あるまちをつくるというところに入るというところまでではないと思いますが、その下の文言ですとか、あるいは、資料6の2ページ目の図にでも入れてもいいのではないかとというくらい重要な観点なのかなと思っております。

ほかのところについては全く問題ございませんし、例えば施策2のシビックプライドの醸成というの、例えば教育とか資格と観光資源の連携というふうに置き換えても、施策としては何ら違和感はございませんので、シビックプライドという言葉をもう少し、施策のひとつではなく、もっと大きな括りの中に入れていただきたいというのが私の意見でございます。以上です。

## 座長

ありがとうございました。確かにそういう印象もあるなという感じは私もしております、知立市でイルミネーションを毎年冬場にやっているのですけれども、かなり市民参加型で若い世代からシニア層まで仕事の合間を縫って、かなり大規模にイルミネーションなんかをセッティングしたりしているのですけれども、そういう市民参加型のイベントに参加するような機会を作ることで、シビックプライドを醸成していくような、そういうことがあってもいいのかなと感じています。

清須学の講座やマイスター制度の導入を検討しているということですので、こういったところとの連携ということで、観光資源のブラッシュアップのみならず、若年層の定住につながるような、シニア層の生き甲斐を作りつつ、その橋渡しでネットワークやコミュニティをもう

一回再構築するというようなことができると、より結婚後もこの地域に住んでもらえるというところまでつながっていくのではないかと感じます。

それでは続きまして、富田委員をお願いします。

## 富田委員

失礼します。富田です。

私は、山本委員と同じように観光の分科会の方に参加をさせていただきました。本当は時間さえあれば、2つ目の、若い世代という部分とか、高齢者の部分にも参加したかったです。今、山本委員や内田座長からもお話がありましたけれども、資料6の2ページの図ですね、先ほども説明の中にありましたけれども、若い世代、高齢者がそれぞれ有する活力を地域全体の活力醸成の推進につなげていくという、その部分で、全てに関連してくるというか、関連付けをさせて地域を盛り上げるのが一番いいのかなと思っておりまして、本当は時間があれば、基本目標2や3に関わる分科会にも参加したかったなと思っているようなところでございます。

また、もしそこに関わる部分が後で発言させていただけるのであれば、自分が思ったことを発言したいと思えますけれども、今は基本目標1ということですので、1の部分について自分が関わってきて、実際に自分も体験して思ったことをお話ししたいと思っております。

まず、私事ですが、この4月から清須の貝殻山貝塚資料館の責任者として、ここに関わることになりまして、清須市を勉強しております。自分で時間があれば清須市に来て、清須市のお店に入ったりとか、清須市のまちを眺めたりということをしていまして、感じたのは、基本目標の施策の3の2つ目に「きよすあしがるサイクル」というのがあるのですけれども、この「きよすあしがるサイクル」は本当に素晴らしいと思ったのですね。

たった100円で借りられて、ほぼ半日くらいなのかな、自転車に乗って回ることができるのですけれども、これを借りて清須のまちをいろいろ見たり、ちょっと美味しいお店へ行ったり、河原に座って買って来たパンを食べたりとかいうことをやっていると。今、映画をみても1人1,800円くらいするのですよね。それが100円で、経験できてしまう。例えば2人で映画館にデートに行けば、同じ映画を観て、共通体験ができて、共通に感じてということで、愛が醸成できたりとか婚活にもなったりするのかもしれないですけれども、「きよすあしがるサイクル」は、彼女と2人でたった200円で借りられますし、本当にいいのではないかと。これをもっと発信して、伝えてあげると、名古屋から電車で10分で来られて、そこから100円ずつで自転車を借りられて、こんな景色が見られて、こんな美味しいものも食べられて、確かマップをもらって、そこへ行くと割引きがあったような気がしたのですけれども、実際100円の自転車代はチャラになっちゃうのではないかと感じたりもしました。

そんなものをうまく発信すると、かなりいいのかなと、本当にすごく思いました。

その自転車を世話してくださる方々の経費とか、そういうボランティアの方も必要なので、そこはどれだけペイするかということはあると思うのですけれども、そういう部分はまた、いろいろと民間の力とか、そういうものを借りてもいいのかなと思っているのですね。

何とかうまく発信できればいいかなと本当に感じました。

それから、この前、この会議にお邪魔させていただいたおかげで、山本委員さんのキリンビールであったり、清須市の清洲城につながりができまして、先日ちょっと試行してみたのですが、愛知県に来ている留学生に、どうやったら清須を知ってもらえるかなということ、大体大学は自分のところのバスを持っていますので、バスと、ガソリン代ぐらいは大学に出してもらいたいけれども、後は全部こっちで面倒をみるという話で、ちょっと大学へお話をさせていただいたら、喜んで呼んできていただきました。中国、ベトナム、台湾から30人ぐらいの留学生に来ていただきまして、まず清洲城を見てもらってから、キリンビール工場の見学をして試飲をさせてもらい、最後にうちの清洲貝殻山貝塚資料館に来てもらいました。

留学生は本当にすごく喜んでくれました。そもそもテンションが高いですので、キリンビールでは、お土産をいっぱい買ったとか、清洲城では紙芝居がものすごくよかったとか、清洲城新聞というのは本当に感動したなんていう声がありました。うちの資料館は、もうちょっと見せ方を工夫した方がいいのではないかということをしていろいろ言われたりしました。ちょっと奥まったところにある竪穴式住居の復元したものについては「こんなものがあるんだ」「これすごくいい」、今、SNSで発信したり、写真を一緒に撮ったりするのがすごく人気があるものから、ここに弥生時代の人の衣装を着て写真が撮れるようなことをできるようにしてもらったら、すごく人が来るのではないのかな、なんてことを教えてもらったりとかして、本当にすごく参考になりました。

その中で留学生が言ったのは、清洲城を臨む赤い欄干の橋から清洲城を見たところが、スタジオジブリの「千と千尋の神隠し」の場面と一緒に、あそこはすごくいいという話があって、ただ、公式的にはスタジオジブリさんが認めていないので、そこは市からは発信できないよという話があったのですが、市が発信できなくても、それはまさに個人とか民間とか普通の方が自分たちでそういったことを発信していくと、そこからでも人が寄ってくるのかなと思います。

今日もこの会議に来るのに、僕はいつも電車で来るのですが、新川橋から岐阜方面を見ると、電車がたくさん停まっていますよね。あんな場所があるよというのを、例えば鉄道マニアなんかに教えてあげると、それだけでも清須にすごく人が来るのではないかなということ、思ったものですから、例えば清須のベストショットポイントの発信を、清須の企業の方たちにお金を出してもらってフリーペーパーを作るとか、後ほうまくどうやって発信したらいいのかなという部分です。役所がやると大体、施策を打っても3年ぐらいで終わりますので、そういったものをリニューアルや改善しながらずっと続けてやっていこうと思うと、その辺は民間の資源とか知恵を借りる必要があるのかなと思います。官民協働で清須を発信できるようなものを作るとすごくいいのかなということを感じました。

いろいろ細かいことばかり言いましたが、愛知県清洲貝殻山貝塚資料館も、10月に初めてイベントをやったのですが、その時に清須市さんには本当に大変お世話になりました。その日だけで1,700人ぐらい来まして、まだまだそういうポテンシャルを、うちの資料館も秘めているのだなと思ひまして、チラシの出し方とか、内容の工夫とか、コラボとかいう

ことが大事かなと思っております。名古屋市の西区も隣接しているものですから、西区からも人を呼ぶということを、来年は考えてみたいと思っております。以上でございます。

### 座長

ありがとうございました。まず最初の「きよすあしがるサイクル」については、これは起点は駅ですよね。名鉄の駅ですかね。やはり、駅まで電車で来て、そこから自転車という形もいいと思いますし、この地域はクルマ社会ですから、パーク&ライドのような形で、駐車場までは車で来て、そこからサイクルに乗り換えるというような、そういうこともできるのかなと思います。

あと、サイクリングロード、自転車専用道路のような形というのは何かあるのでしょうか。現状では、通常の一般道路を回るような形ですか。

### 事務局

清須市内では自転車専用道路はございませんので、一般道を走っていただくことになります。

### 座長

若年層等と呼ばれ込むには、シニア層もそうですけれど、安心・安全というか、清洲城の近辺とか川の周辺とか、そういう自転車が安心して通れるような、歩行者との仕分けができるようなコースがあると非常にいいのかなと。やっぱり、車でも電車でも来て、そこから自転車だけでも楽しめるような。事故等があってはまずいと思いますので、そういう形で「きよすあしがるサイクル」が発展していくと、非常に魅力的なコンテンツになるのではないかと思います。

後もう1つ、外国人留学生のお話をいただきましたけれども、外国人に関しては、今ご指摘があったようなSNSだとか、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターと、様々なところで、口コミというのは非常に重要です。地元で大学があって留学生がいるということであれば、そういった方たちに実際に体験してもらって改善点なんかを取り込みながら、名駅からかなり近いというアクセスの利便性を生かしていかないといけませんので、そういう意味ではリニアの時代に向けて、名駅が、外国人訪日客対応、多言語表記なんかも当たり前の、ターミナルスクエアを目指すということですので、それと同じスピードでというか、むしろそれよりも速いくらいのスピードで、清須市も対応していく必要があるのではないかと思います。

それでは続きまして、北山委員にお願いします。

### 北山委員

新川高校の北山と申します。よろしく申し上げます。

第1回の推進会議、ほかの出張と重なりまして欠席ということで、代理で教頭の方が参加させていただきました。申し訳ありませんでした。

私の方は、戦略提言会議、ワーキンググループの参加からということで、この会議は初めてなのですけれども、まず2回、若者目線からの定住・結婚・子育て支援という提言会議に参加

しまして、私が実は20年ちょっと前にも新川高校で教員をやっていたものですから、そこには本校の卒業生で、その当時の教え子も参加しておりまして、若い世代がしっかりした意見や柔軟な発想をして、真摯に取り組む姿勢というものに、非常に感動といいますか、将来、次世代、この人たちが将来を支えていってくれるのだなという、そういう希望みたいなものを感じられた2回の会議でした。とても意を強くしたというか、参加して、本当に私の方も勉強になりました。

基本目標なのですけれども、私は若者目線の方に参加していたのですが、とても興味があるのは実は基本目標の1の方でして、それはどうしてかといいますと、ここの施策2のシビックプライドの醸成にあります、2つ目の社会科の授業や総合的な学習の時間における清洲城等の積極的な活動、あるいは、1番の愛知県と連携した朝日遺跡の普及・啓発、清洲貝殻山貝塚資料館のにぎわい創出という、ここのところを意識した取組を、本校、今年から行っておりまして、こちらにも本当に参加したいという気持ちが一杯だったのです。

ここの中で、最初にお話しされました山本委員さんのご指摘というのは、すごく私も感じておりまして、シビックプライドってすごくいい言葉だなと思ったのですが、学校でいいですよ、よく、帰属意識を高めるとか母校愛を深めるといった言葉を使いますので、それと同じものだなと思っています。

本校も、第1回の時に教頭がお話ししましたように、地域の強い要請で作っていただいた学校ですけれども、時代が変わると、今清須市から通っている生徒は全体の20%弱で、一番多いのは名古屋市です。名古屋市が50%弱。後は稲沢市、北名古屋市、あま市というふうになるのですが、そうしますと高校3年間を過ごす新川高校が、清須市にあるということあまり意識せずに卒業していく生徒も非常にたくさんおります。

そういう辺りが、帰属意識や母校愛というものの希薄になっているところにつながっているのではないかということで、やはり教育と地域資源、地域の文化や歴史、この活用ということが一番大きな目標に掲げまして、今年から取り組んでおります。

そういう意味では、やはり、シビックプライドというのは私ももっと大きく前面に出していただく言葉で、具体的な施策、先ほどは教育と観光の連携という、これもいいなと思ったのですが、やはり教育と地域の資源をうまく結び付けていくという、そういう方がいいのかなと思っています。

ここで宣伝してはいけないのですが、その取組は、先ほど発言されました愛知県文化財保護室の富田室長さんにもずいぶんご協力いただいたのですが、いろいろなところでパネルを張っていただいているのですけれども、ちょっと今日持ってきましたので、回させていただきます。

清洲貝殻山貝塚資料館と清洲城を現地踏査をしまして、グループで発表するという、そういう総合学習の企画を立ち上げて、8クラスあるうち、前半4クラスをやったものをまとめたのが、このシートで、ホームページでも公開しています。

これをちょっと見ていただければと思うのですが、前半グループの最後の発表後、11月19日に2時間連続で行なったのですが、生徒はすごくいろいろな工夫をしまして、その中のひとつのスライドで、自分たちのまちの歴史、この長い歴史によって今の清須と名古屋がある。名

古屋から50%弱来ますので、名古屋というまちが、清須と本当に深い関係があるということ、ほとんどの子が知りません。そういう意味で、清須と名古屋があり、自分たちの通っている学校があるまちについて知ることができ、新川という母校が清須にあることを誇りに思いたいというまとめのスライドを作って発表してくれました。

私自身も、すごくやってみてよかったなと思っているのですが、この言葉を発表で使ってくれたというのが感動的で、やはりそういう辺りの意識を若者たちが持って、もちろん大学は、かなりいろいろなところへ出ていきますが、再びまた愛知県へ戻ってきてくれる生徒も多いです。そして、いろいろ職場によって住むところも違ってくるのかもしれませんが、やはり、若い時代に人間形成したところが清須だというのは、定住につながっていくのではないかなというふうに思っています。

あと1つ、教育と地域資源の活用ということを考えるとき、もうちょっと自分としては、小中高が連携を深められればよいなと思っていまして、これは、また清須市の教育委員会ともいろいろお願いをしながらやっていきたい。これが私の課題ということです。以上です。

## 座長

ありがとうございました。今もシビックプライドについてご指摘をいただきましたけれども、義務教育段階でも高校でも、そういう基礎知識を醸成していただくというのは必要なことだと思いますし、また、恐らく愛知県との連携ということで朝日遺跡を普及していくということも必要なのですけれども、全国区の情報としてブランド化をしたときに、地元の人でもプライドをかなり高めるという傾向が非常にあります。

私は青森県の出身なのですが、青森でも最近4～5年前から、県の方に対して、かなり全国放送のテレビを通じて情報発信をしてはどうかという話をして、頻繁に取り上げられているのですが、やはり全国放送で取り上げられると青森県民もそれを見て、この情報が全国に流れているということで地元意識を非常に高めるという傾向がありましたので、県内はもとより、全国的に朝日遺跡辺り、貝塚とかそういった情報は、歴史とともに情報発信されるということが、最終的にはシビックプライドにつながるような気もいたします。

それから、施策1のところのご指摘をいただいたのですが、ふるさと納税、というワードもありますけれども、これも今度、企業版ふるさと納税も導入されるということですので、そういった企業の活動、直接的にそれに対するキックバックというか、癒着があってはいけないということでそれは禁止の方向ですけれども、やはり企業と自治体との関係性というところも非常に重要視されていると思いますので、地域にある企業との連携ということも重視していただきたいと思います。

それでは続きまして、舟橋委員お願いします。

## 舟橋委員

愛知医療学院短期大学の舟橋と申します。よろしく申し上げます。

まず、基本目標1の施策1に関して、地域資源の積極的な活用ということなのですが、前のこの会でも申し上げたのですが、清洲城の活用はやはり不十分であるということは、これは否めないと思います。誰もが感じると思います。

いろいろ言いましたので、例えば城の駅とかそういった新しい試みを行ってもいいかなと。道の駅はいくらでもあるのですが、城の駅。清須の特産品をそこで売るとか、そういうようなこともやっていいのかなと思いました。

シビックプライドの醸成に関しては、例えば犬山市。私は小牧出身ですので、犬山城は何回も行きました。今、犬山市は城を中心に大変盛り上がっています。これはまちの人たち全員が一丸となって盛り立てようということで、まちづくりも一緒にやっているということで、大変いい手本が近くにあると思います。

昨日もBS放送で、犬山城のことを取り上げてやっていました。すごく興味深くみていたけれども、そういうところに取り上げてもらえるように、清洲城もやはり発信すべきであろうと。そういうところへ働きかけて、テレビで取り上げてもらうということは非常に大事だと思いました。

それと、観光のワーキンググループのメンバーをみたときに、若い女性が全然入っていないのが、ちょっと私には違和感を覚えました。今や女性の目というのは大変重要だと思います。そういう人たちの意見があまり出てこない。メンバーに入っていないというのが、まずちょっと問題かなと思いました。城だとか遺跡だとかそういったものをどう解釈するかというのに、女性の目からというのは、今の時代、大変重要です。そういうふう感じております。

それから、情報発信に関しても、若者向けの情報発信をしないと、情報発信で一番敏感なのはやはり若者だと思います。ですから、若者受けのする情報発信の仕方に工夫をしてもらえればと思います。

そして、申し訳ないですが勝手なことを言わせてもらうと、とにかくいろいろなご意見を聞いて、硬い。めちゃくちゃ硬いと思うのですね。全く軟らかさがない。それで、ある意味、長く住んでいる高齢の人向けという感じがしてしまう。だから、若者の、もうちょっと砕けた、そういう人たちが「行ってみよう」「見てみよう」「楽しんでみよう」と思うような、そういう雰囲気をもっと出してほしいと思うのですね。

とはいえ、清須で定住したいという人が非常に多いという情報が先ほどありました。それはなぜかと考えると、定住したいと思うからいいのだということではなくて、なぜ定住したいと思ってくれるのかというと、第一に物価が安いからでしょう。物価というのは土地も安い、建物も安い。名古屋から近い。そして、穏やかな市だと思います、清須市は。非常に穏やかだと思うのですね。そういうのがいつまで続くか、若者は穏やかさを求めて、名古屋からも近いということで来ているのですが、それも、あるところでとどまってしまわないか。

創業支援ということに関しては、清須の商業施設は、食べる場所はたくさんある。しかし、娯楽施設は全くないです。パチンコ屋しかない。例えば、複合施設、映画館とか、そういうものが一緒になった複合施設のようなビルが、若者が行くようなところ、集まる場所が全くないのですね。硬いところを除いてです。そうするとお金を落とさない。一番お金を使う

のは若者ですから、若者がお金を落とすような場所を何とか工夫して作る。そうすれば税収ももちろん増えますし、いろいろないい効果も出てくると思います。

ですから、非常に落ち着いた、静かな雰囲気的清須市というのも重要ですが、一方やはり、娯楽、楽しみ、そういった若者がより集まれるような、そういった施設も必要ではないかと思いました。勝手なことばかり言いました。

## 座長

ありがとうございました。今のお話の中で言いますと、文言が硬いというのは、これは国の方針の中でやっていますので、最終的にパンフレットとかリーフレットにする段階では、より分かりやすいものを提示できるかと思えますけれども。

あと、定住人口、若い層の娯楽施設がないのではないかというご指摘なのですけれども、やはりこれだけ名駅に近いと、アクセス時間が非常に短くなり、どうしても名駅周辺に引っ張られてしまうということで、その点に関しては、個人的にはベッドタウンとして定住人口を増やすというところに徹してもいいのかなという感覚は持っております。

あと、若年層についても、現状はかなり可処分所得が低いということで、消費者としてみるということよりは、将来の少子化の対策として、20代、30代の女性が半減以下になると、消滅可能性都市といわれるように、子どもを産み育てる若い女性がいなくなることに、各自治体は危機感を持っているわけですから、やはり、特に女性に魅力的なまちづくりと情報発信というのが確かに必要なのかと感じました。

それでは続きまして、山田委員をお願いします。

## 山田委員

中日信用金庫の山田でございます。

私も、この委員会に参加させていただきまして勉強させていただくことが、本当にたくさんありますので感謝しております。

先ほどの基本目標1の中でいろいろお話が出ました。実は舟橋先生のお話と非常に一致するところが非常にありまして、これをお話しするつもりだったのですけれど、清須に約8割以上の方が「住みたい」、76%の方が「住み続けたい」と。私も同じことに注目して、なぜだろうと考えました。数字をみると大きいという感じがするのですが、私が思っているのは、情報の格差ということです。大都市に近いということで、確かに住みやすいとかいろいろなことはありますが、私はそのことが第一優先になっている可能性が非常に高いと思います。ただし、北山先生がおっしゃったように、生徒の皆さんが地域について調べてみたら、誇りという言葉が使われましたよね。あの言葉は私は非常に大きいと思っています。何故かという、今、シビックプライドが話題になっていまして、清須学講座とか歴史マイスターということで表現されておりますけれども、こういったものを継続するというのは、誇りとか、「清須が好きなんや」というような原点がないと、継続は難しいと思います。だから、そういったことに対して、いろいろなことが起きたときに乗り越えていくパワーはそこにあると私は思います。

だから、北山先生がおっしゃったように、2割の方が清須の出身で、ほとんどの方が他地域から通ってこられているとなると、生徒さんは名古屋と清須との関係性を分かっておられない。この実態は恐らく生徒さんだけの問題ではないと思います。情報と言いましたが、大都市情報は蔓延しています。名古屋の情報だとか、いろいろなことに関してありますが、本当に清須の情報が、皆さんの中に知れ渡るような発信あるかということになると、私は非常に限られていると思います。

清須学講座とか歴史マイスターについても、一部の専門家の方々だけの問題ではなくて、地域に住んでおられる方が、どう誇りを持てる地域にするかというアプローチも、私は必要ではないかと思いますので、そういう面では市民参加型という、そういった型のやり方をいろいろ工夫の中でやっていく必要が、やっぱりあるかと思っています。

ボランティアの方も本当にやっておられますよね。その方だけではもったいないですし、そういう方々の力も我々は認識する必要があるし、地域の方々も認識する必要があるのではないかと思います。

それからもう1つ思うのは、富田委員のおっしゃった「きよすあしがるサイクル」ですか。私も地域を歩いたことがあるのですが、いろいろなことが分かりました。なぜかというと、今、リニアだ何だと、非常にスピードアップすることが一部で要求されていますけれども、人間のリズムがありますよね。人間のリズムで感じることも、地域を知るという上では非常に重要だと思っていますので、そういう面ではいろいろな施策とのコラボ、これを基にして清須のことを十分認識をするということは必要ではないかと思っています。

清須学の根本はもう1つありまして、私は「見えざる価値」ということを思っているのです。情報というのは、そのことが認識されていないと、見えないですよ。見えないから、結果的に「なし」というふうに認定してしまう。私はこれは非常に大きな問題だと思っています。清須の歴史の重さとか、名古屋との関係性とかいうものも、やはり表に出して、みんなで認識し合う。こういったものを原点にして取り組む必要があるかと思っていますので、それぞれ専門家の方々の思いを、市民の方々にきちんと知っていただくというアプローチは必要ではないかと思っています。

全般的に基本目標1については、本当に清須という地域のことを何とか好きになって、ただ単に地域の利便性だけではなくて、そういう面での認識を深くし、誇りが持てるようなまちというふうに、1歩でも2歩でも進めたらいいなと思いますので、この件については大きな違和感はありません。よろしくお願いします。

## 座長

ありがとうございました。今、山田委員ご指摘の市民参加型のイベント。私も冒頭で触れたのですが、新しい公共まではいかないまでも、官がある程度誘導するような形で、民間レベルでシニア層、若年層というところのコミュニティを再生するような、そういうイベントができるといいのではという期待を持っております。

それから、先ほど舟橋委員のところコメントを言い忘れたのですが、犬山城のお話があり

まして、私も名古屋に来た、もう24～25年前ですけれども、やはりここは国宝ですし、そのまま木造建築として残っているということで、本物指向のシニア層に関しては、犬山城を好む傾向があると思いますし、友達が来たりしたときは、名古屋城ではなくて清洲城でもなくて、犬山城に連れていくケースが多かったのですけれども、清洲城に関しては、山田委員のご指摘があった、名駅とのアクセス性が非常に高い、しかもかなり派手なお城、橋なんかもそうですけれども、色彩で作られておりますので、この辺はかなり訪日外国人観光客等には、逆に受けがいいのではないかという印象も持っております。

それから、外国人というのは、サムライ、ゲイシャ、ブショウ、ニンジャ、特に忍者なんか清洲城にいたのかどうか分かりませんが、コンテンツとしては非常に有力であると思いますので、前回は言いましたけれども、リニアの名駅にも非常に近いということで、外国人観光客というところを交流人口の有力なメインの客層として捉えていく必要があるのかと感じます。

それでは最後に、平野委員にお願いいたします。

## 平野委員

連合愛知の平野でございます。

具体的な施策ということでお示しをされておまして、このこと自体、いろいろとまとめていただいたと思います。具体的な施策ということでお示しをされておりますけれども、これをまた実際に動かしていくときに、いろいろな目線からご意見を伺って、進めていただきたいなと思います。私は提言会議の時には、若者目線の施策というところで出席をさせていただきました。清須市役所の若い職員の方、それから清須市の若い人たちということで、真剣に清須のことを発言されて、まとめておられました。

清須市を地図で見たのですけれども、この地域というところは、清洲城だとか、先ほどの清洲貝殻山貝塚資料館だとか、そんなに大きい地域ではないにもかかわらず、これだけの観光資源を持っているところは本当に珍しいのではないかなと思います。私は稲沢市に住んでいますが、稲沢でこういう観光資源で何があるか、というようなことになってくると思います。

ただ、ちょっと話が出ていましたけれども、それを完全に生かしてないというところを検討されていると思うのですけれども、盛り上げるときには、ちょっとひねった、具体的に言えないので申し訳ないのですけれども、ひねったところで、いろいろな方のご意見を伺うと、いろいろ具体的な案が出てくると思いますので、その辺もお考えをいただきたいというところでもあります。

それから、ふるさと納税に関して、これは突拍子もない話かも知れませんが、いわゆる名古屋市近郊ということで、実態はちょっと分からないですけど、清須市から他の地域に出られた、いろいろな理由で出られた方も多々みえるのかなと思います。私は鹿児島からこちらに就職してきておまして、何が言いたいかというと、今は、市町村合併で霧島市になっておりますが、霧島市では東京の方に、霧島市ふるさと会、それから関西の方にも霧島市ふるさと会というのを構成しておまして、名古屋、いわゆる中部地区ですね、中部地区にも

霧島市ふるさと会というのを作っております。そして、それぞれ年に2回、3回ですね、鹿児島から出てきている者で集まり等をやっておりまして、今ふるさとの現状はどうだというようなことも話をしているところですけれども、清須というところから、先ほど言いましたように、私の目からみればここは都会は都会なので、関東だとか関西の方に行かれている方々がどの程度いるか分かりませんが、やはり自分の育った清須というところには、皆さん、どこへおられようが愛着を持っていると思いますので、その辺の組織ができるかどうかは別にして、そういう観点でも少しお考えになっていただければと思います。私の方からは以上であります。

## 座長

ありがとうございました。最後にご指摘のあったふるさと納税ですけれども、これはかなり自治体ごとに格差が出てきていますけれども、今年の上半期の数字、実績をみると上位に来ている自治体はほとんど生鮮食品、1次産品のブランド化をされたようなものが多い。実際に自分の地元へ寄付をしている人もいるとは思いますが、大部分がやはり返礼品を目当てにした納税ということになりますので、そういう意味で清須にも、前回いくつかの品目を挙げたと思いますけれど、そういった生鮮品と、あと「鬼ころし」とかそういったものもありますし、逆に言うと、市内に全国1号店のあるCoCo壺番屋と連携ができるのかどうか、ちょっと分かりませんが、キリンビールさんも含めて、民間企業から清須のふるさと納税を増やすような、そういう連携、取組ができないのかなというふうに思います。

後は、ふるさと納税に関しましては、名古屋めしと関連して名古屋のいろいろな加工食品なんかも全国的にPRしていこうという動きもありますし、地理的表示保護制度の第1弾の認定が今週出ましたけれども、そういった地名プラス品目が付いているような地域ブランドを、T P P参加に関連してどんどん増やしていこうという動きは、これから間違いなく加速すると思いますので、清須という地域名が付いたような、これは生鮮食品に限りませんが、加工食品だけではなくて他の製品でも、極力「清須」というふうにワードを入れてもらうような、そういう取組というのを進めていただきたいというふうに思いました。

## 2) 総合戦略全体の構成、もしくは基本目標2から4のいずれかについて

### 座長

それでは、若干時間が押しておりますけれども、続きまして基本目標2から4ということで、子育てしやすいまちづくりと、それから基本目標3が高齢者のアクティブに暮らせるまちづくり、基本目標4が安心・安全で快適に暮らせるまちづくりということで、この2から4、あと全体の構成についてのご指摘を、お1人4分程度を目安にご意見をいただきたいと思います。

それではまた、最初で恐縮です、山本委員お願いします。

### 山本委員

山本でございます。

私が全体的に感じたのは3点ございます。まず1つ、基本目標が4つと施策が4ないし5あ

るのですけれども、合計しますと20近くある試算となるのですが、この優先順位をどう付けていくのか、というところがひとつポイントかなと思います。

その優先順位は、経営資源の配分という意味での優先順位もそうですし、早くやった方がいいというものもあると思いますが、いろいろな切り口から優先順位というのもご検討いただいて、またご提示いただければ、もっと検討しやすいかなと思っております。

2つ目が、基本目標4についてなのですけれども、どの内容も非常に重要なことだとは思いますが、ただ、ほかの基本目標1から3の施策に比べると、かなり長期的な目標になっております。こちら計画期間が平成31年までの4年間となっていますので、逆に基本目標4は4年間でやっても、まだまだ長期的なものもたくさんあるのではないかと。そうするとKPIの設定はどうするのかというところがあります。マイルストーンを置いて31年末までにここまではやる、という考えがあるのかもしれないですけれども、ほかの施策に対して特に長期的なので、KPIの設定をどうするのかというところを、またご検討いただきたいと思っております。

最後が、資料6の2ページ目の基本目標の相関関係のイメージとあります。こちらは、先ほど事務局の説明を受けたりもう一度文章を読み直してみると、分かってはきたのですけれども、ちょっとこの図をみただけでは、これでどういうふうになっていくのか、例えば、真ん中に表している矢印がどうかかかっているのかというのが、ちょっと分かりにくいかなと思います。

恐らく、基本目標をいろいろ説明していくに当たって、まず何をどうしたいのかというのは図形で表すわけですから、このイメージ図がしっかりしているか、分かりやすいかというのがポイントになってくると思いますので、今一度、ほかの説明がなくても、文章がなくても、これだけを見れば、ある程度は分かるようなイメージ図にさせていただいた方が、市民の1人ひとりまで腹に落ちていくのではないかと思います。私の意見は以上でございます。

## 座長

ありがとうございました。まず、基本目標4のところについては、これに関してはかなり長期的な視点の中での、まずは先ほど4年間という位置付けだと思いますけれども、ここについて事務局としては、どういった判断をしているというコメントはいただけますでしょうか。

## 事務局

確かに委員のご指摘のように、基本目標4につきましては、かなり長期スパンの事業がこちらの方に並んでおります。とはいえ、清須市にとって、ここに掲げてある基本目標4で具体的な施策につきましては、どうしても市の地域性からすると、地方創生の事業として切れない事業だということで、こちらの方に掲げさせていただいております。

KPIの設定等につきましては、どのようにしていくのかというのは、今後詰めていきたいと考えております。

## 座長

ありがとうございました。確かに委員ご指摘のように、基本目標1から3に比べると基本目

標4は、かなりベースになるような、そういう施策になろうかと思えますけれども、先ほどの優先順位、ウエイト付けのご指摘とともに、やはりこの辺は国への提出を考えた場合には、この段階では、まだ、その辺のウエイト付けは難しいのかなという印象は持っています。

ただ、実際に具体的に施策を進めていく段階では、その辺りの優先順位、ウエイト付けは必要になろうかと思えますので、また事務局の方とも相談してその辺りは進めていきたいと思えます。

それから、イメージ図に関して、これからブラッシュアップしていく段階だと思えますけれども、今の委員のご指摘を含めて、より具体的に、感覚的に分かるような、最終的にパンフレット、リーフレットに落とし込む段階では、より分かりやすい図の作成というものを目指していただきたいと思います。ありがとうございました。

それでは続きまして富田委員、お願いします。

### 富田委員

すみません。失礼します。何からどう話していいか頭の中が混乱してしまうくらい、皆さんいろいろな意見を発言されて、皆さんの意見を聞くと本当に参考になるなと思うことがたくさんあって、一緒だなと思うことも一杯あります。

特に、さっき舟橋委員が言われた若者目線という部分とか硬いという部分は、どうしてもこういった会議だとそうならざるを得ないかなと思えますし、自分もそういった仕事をしているのでどうしてもそういう傾向にいつてしまうのですけれども、実は、それをあえてなしで考えてみようかなと思ったこともあって、先ほど清須をぶらぶらしているという話をしましたが、清須は「土田かぼちゃ」というのが有名らしいですね。カボチャが有名なところはあまりなくて、一方、今、若者なんかではハロウィンがすごく人気で、仮装とかコスプレをやっているのがあって、「土田かぼちゃ」とハロウィンを結び付けると面白いかなと思ったりもしたのですね。そこに若者もお年寄りも参加ができて、そんなような、例えばコスプレイベントをやったりとかいうこともできると、今の「土田かぼちゃカレー」だけではなく、違う発信とか、先ほど平野委員も、ちょっとひねるといいのではないかという話、ちょっとひねられるのかなと思いました。

そんなことで、例えばカボチャというところで、ハロウィンというので打ち出して、若者もお年寄りの方も参加できるような仮装イベント、お年寄りであれば「砂かけ婆」であったり「子泣き爺」だとか、そういうようなコスプレをしたりして、若者も年寄りも壁をなくすようなイベントができるといいのかなと思えます。

もう1つは、市民参加型ということをすごく皆さんも発言されて、私もそれは本当に大事だなと思えます。上から目線で教えるのではなくて、市民の内発的なもので地域が盛り上がるのが一番いいのかなと思ひまして、自分関わっているイベントで、サマーセミナーというものを毎年、名古屋でやっているのですけれども、1つの学校をお借りして、その教室をそれぞれ自分で勝手に使ってもらい、誰でも先生、誰でも生徒ということで、例えば泥団子の作り方とか、マクドナルドのハンバーガーに近い味の作り方とか、そんな、個性的な講座からちゃんと

高尚な講座もあります。要は小さい子どもでも先生になれるし、お年寄りの方も先生になれるし、その1部屋を使ってもらって自分で講義ができる。そこに自分で生徒を集めて、サマーセミナーというのをやっています、私は毎年参加しているのですけれども、すごく面白いです。やっている人もすごく勉強しないと教えられないので一生懸命勉強しますし、来た人は「こんなことがあるんだ」ということを知ってもらえて、すごく有意義なイベントだと思っているので、例えばですけれど、仮に、どこかの学校で夏休み中の空いている時間に、教室を利用して市民の方がそれぞれ講師になって、自分の得意なことや、自分のよく知っていることを人に教えるというような、そういうイベントをやると、それこそ、その中に清須学とか清須のこんなことは知らないだろうなと思うようなことを、子どもでもいいですし、お年寄りの方でもいいのですけれども、講師になってやられると面白いか何ていうふうに思いました。そんなにお金もかからないのかなと思っています。

それから、若者と高齢者を分けて考えていますが、それも一緒にしちゃうと本当はいいのかなと思っています、子育てで言うと、例えばオレンジリボンというのが児童虐待のシンボルマークで、高齢者でいくと認知症のサポーターがオレンジリングというのですかね、オレンジつながりでオレンジイベントみたいなことをやって、子育ても高齢者の介護も一緒に考えていくよというようなイベントをやる。そこに、なおかつハロウィンもオレンジだから、ハロウィンも一緒にしちゃうとかですね、そういう硬くなくて、緩くて何でもありで、みんなが一緒になれて、みんなで考える機会を持って、無関心な人も関心を持ってもらえるというような、そういう機会を作るというのはひとつありかなと思いました。

あと、基本目標4、ちょっと違和感があるなというのはあるのですけれども、役所に勤めているのでどうしてもしょうがないなと理解はできますけれども、ちょっと普通の人からみると、違和感があるなと思います。どうしてもハード面になってしまうので、ハード面ではなくて、ソフト面の考え方で、安心・安全で快適に暮らすためにはということで、例えばそれに対して一番大事なのは、僕がいつも思っているのは、助け合いができるコミュニティの構築が一番、安心・安全に快適に暮らせるということなのかなと思っています、そういうために地域円卓会議を設けるよとか、そういった切り口だったらKPIも設定できるかなと思いますし、例えばこの中に防災訓練みたいなことを入れてみて、ゲーム性を持たせた防災訓練をやってもらってみんなの意識を高めるとか、そういうことであれば、KPIの設定ができるかなと感じた次第でございます。以上です。

## 座長

ありがとうございました。2から4の基本目標の中でも、ある程度、観光、地域資源との絡みというのは出てくるとは思いますけれども、今ご指摘があった「土田かぼちゃ」以外にも、ニンジンとかダイコンとかいろいろ地元の特産品あるかと思っておりますけれども、この辺は全部、今、ハロウィンというカボチャとの関連性も出ましたけれども、全部カレーに入っているもおかしいですし、この辺もやはりCoCo壺番屋さんとか、そういう民間企業との連携ということで清須のブランド化にも活用できるのかなと思います。

それからあと、カボチャでハロウィンとの関連性で、さらにコスプレといういろいろなアイデアをいただきましたけれども、名古屋市もコスプレサミットをやったり、大須やオアシス21でコスプレの大会なんかも国際的にやっているということで、清洲城、名古屋城との関連で考えてもよいかもしれません。

今年前半ですけれども、USJの集客数がディズニーを超えていたというのも、年間ベースでどうかまだ分かりませんが、ディズニーの方は対象年齢層が低すぎて、少子高齢化の時代というのはUSJのような、かなり幅広い層、特に年輩の人たちを集客できるような施設が求められているのかなということです。

ご指摘があったハロウィンに関しても、いずれひょっとしたら、マーケット的にはクリスマスを超える可能性すらあるのかと。毎年コスプレで物販も出ますし、仮装していろいろな飲食店だとかイベントに参加するというような、先進国では、将来的にはハロウィンの方がイベントとして重要視されるのではないかというふうにも思いますので、その辺は、清洲城辺りを舞台に、武将関連だけではなくていいと思いますけれども、そういった何か参加型のイベントというのはやはり重要なのかと思いました。

それでは続きまして、北山委員をお願いします。

## 北山委員

この総合戦略のまとめ方とか基本目標のイメージ図は、最初の山本委員さんが的確にご指摘されましたので、そこはちょっと置いておきまして。本当に、イメージ図については、最初私も見たときに、かなり、このイメージ図というのが、市民の人たちが最初にみたときにインパクトのあるものなので、もっとグッと来るようなデザインにしていただけるといいかなとは思っていました。この点は、もう既にご指摘いただいたとおりです。

またまとまりのない話になってしまうかもしれませんが、3点ほどお話いたします。

最初に、舟橋委員さんの方が言われた女性の目線、女性の視点というのは、私も本当にもっともっと表に出してほしいなというふうを感じているところで、ただ、私が参加したワーキンググループでは、女性の方がずいぶんいろいろなことを積極的に言ってくださっていましたので、それが基本目標2のところには生かされていると思いますが、改めてまたもう一度、やはり女性の意見というところから確認していただければと、私も思います。

それから2点目は、基本目標3の「高齢者が元気でアクティブに暮らせるまちをつくる」についてです。ここは舟橋先生のご専門になると思うのですが、ちょっと学校の宣伝ばかりしてはいけないのですけれども、去年から2年生の家庭基礎という授業で、高齢社会を生きるというテーマがありまして、やはり、今は多くが核家族になっていますので、本当に子どもたちの身近に高齢者がいなくなっているのですね。そういうところもありまして、1学年320人もいますと、小・中学校のように出かけていって交流することはできないものですから、逆の発想で来てもらおうということで、今年ももちろんやっておりますが、高齢者との交流授業というのをやっております。ホームページの印刷をお返ししますが、5人くらいの小グループに、清須市の寿会、老人会の方がお1人あるいは2人入っていただいて、インタビューや小

さい頃のいろいろな遊び道具や写真まで持ってきてくださって、自由にディスカッションして、いろいろなことを語り合うという時間を設けております。

延べ70名近い高齢者の方がおみえになるのですけれども、授業で8回やるのですが、午前中に1時間、午後1時間ですと、その両方ともに来たという方がいて、いったんご自宅へ帰ってご飯食べてからみえる方もみえますし、弁当を持ってきていただいて、2つとも出てくださる方もみえます。お話を聞いていますと、逆に元気をももらったとか、暇をしているからもっと仕事をくださいとか、そういうようなことを言うてくださって、とても相互にプラスになる授業なんだなと感じています。今後もずっと継続していきたいと思っていますので、高齢者の方だけがという視点ではなく、やはり若い世代とどうつながっていくかというところも入ってくると、もっともったいいのかなというふうにちょっと感じました。

最後もう1点は、戦略のところとは違うのですが、人口ビジョンの概要のところ、住まい、子育て、結婚、定住というところになると、結婚して、やはり子どもを作るということになっていくので、その問題を話し合っていたときに、異性とうまくつき合えないというのが29.2%というアンケート結果が出ていて、ワーキンググループの時もすごいショックだと話していました。今の高校生たちを見ていても、やはり人間関係がすごく希薄ではないかと感じています。つながっていても、LINEなどのSNSですので、言葉は悪いかもかもしれませんけれど、触れ合いとか、顔を見てのつき合いとかそういうところは、とても苦手といいますか、うまくいかなかったときに、またどういうふうにそれをクリアしていくかというような部分が、身についていないといいますか。やはり、経験や体験がないからできないことって多いと思うので、別に高校生に恋愛を推進したいわけではないのですけれども、もっともった人間関係を深めていくような取組をしていかないと、将来にもこれはつながるのだなということ、このアンケート結果で感じて、それはやはり、人口の増加にも将来的にはつながっていく。ここら辺りを、私たちもちょっと考えていかないといけないなというふうに感じました。感想ばかりで申し訳ないですが、以上です。

## 座長

ありがとうございました。まず、最初にご指摘のイメージ図については、先ほど山本委員からもご指摘がありましたけれども、思いつきで恐縮なのですけれども、これは恐らく白黒ということでも少し印象がよくないのかもしれませんが、かなり、観光資源とか、あと若者とシニア層の交流の場とか、いろいろな意味で清洲城というところが、この市の一番のブランド力につながっていると思いますので、イメージ図なんかも、お城をデフォルメしたようなデザインで、一番上に基本目標の1から順に、一番最後の基本目標4が全体的なベースになるかと思いますので、お城を4層建てにして、一番上から、歴史、自然とか観光、観光まで言っちゃっても、ものとしてはいいのかなと思います。このまま、どこの市町村でも転用できるような形よりは、直接的なワードも、もう少し突っ込んでいってもいいのかなというふうな印象を受けました。

後は、やはり若い世代と高齢者、シニア層との交流というか、そこはシビックプライドにもつながっていきますし、定住とかですね、社会増、自然増、最終的にはそういったところまで

つながっていくと思いますので、その辺もそれぞれの基本目標が連携しているというような書き込み、そういったイメージ図への転用というところが必要になってくるかと思います。ありがとうございました。

続きまして舟橋委員をお願いします。

## 舟橋委員

全体的なことについては皆さんお述べになりました。私は基本目標3の「高齢者が元気でアクティブに暮らせるまちをつくる」のワーキンググループに参加しましたので、そこでの印象ですが、驚くことに市内には、ものすごい数のボランティア団体があるのですね。100を超える数があるのだということを聞いて、びっくりしました。一番大きな団体は寿会だということも、そこで勉強しました。

それで、ただ個々に、そういうボランティア団体が個々に活動している。横のというか、それを統括するようなそういう仕組みはあるのですかと聞いたら、集まりはあると。あるけれど、報告会が年に1回あるということでした。要するに横のつながりが全くない。個々には本当にいろいろなことをやっているということを知りました。

さらに、横の連絡、統括するような仕組み、それと情報発信が全くされていない。そういうのがあるというのは、みんな知らないです。先ほどのカボチャだとかいろいろな特産品を作る、そういう会がいろいろあるのです。男性が中心になってやっている料理教室などもあるらしいです。

それを聞いて本当に、信じられないというか、現実を知りました。何でそんなにみんなに知られていないのだろう。市や社協のホームページで細かいところへ入っていくと、やっと分かるというようなこととか、多分、広報などで情報が発信されているのでしょけれども、もうちょっと上手に、みんなに知れ渡るようにできないのかと思います。知れ渡るようにすることが、事の始まりですね。

定年を迎える、特に男性はそういったグループに入れない。市民参加がしづらい。とにかく構えちゃうのですね、男は。悪い癖があって。そういう人たちは「何で行かないかん」というて結局なかなか参加できない。そういう人たちをどう掘り起こすかということなのですが、私がワーキンググループで提案したのは、「定年式」というのを市でやったらどうかということでした。成人式の代わりというか、成人式と同じように、定年した人が式に出て、いろいろなボランティア活動があることを知ったり、年金の有効活用方法について説明を聞いたりだとかができる、「定年式」に参加してくれるのではないかというような意見もありました。

感じたのは、ボランティアは高齢者の人たちがほとんどなのです。若者は、全く別個です。

先ほど、名古屋のベッドタウンという考え方に立ちますと、人口が増えているのは若者が入ってきているからですよ、明らかに。これは、道路が少し改善されてきて新しい家が建ったから若者が入ってきて、それで人口が増えたということで、若者が望んでいるのはベッドタウンだとすると、ボランティアをしている高齢者との結び付きは全くない。だから、隔絶された社会が2つできてしまうということになるのですね。これをどう結び付けるかというのは、本

当に大事なことだと思えます。これは何とか、上手に結び付けられないといけないというふうに思いました。

それから、うちの短大は、清須市さんと官学連携の協定を結ばせていただきました。これを弾みに、私どももいろいろなことに活動していきたいと思っています。その中で「らくらく運動教室」などはずっと続けておりますが、先日も北山先生の新川高校へ行って、障害者スポーツなどについての出前講義などをさせてもらうようになりました。前からあるのですが、うちの短大へ入学してくれる人も出てきましたし、目を向けてくれるようになりますから、そういったことも連携の一端だと思っています。

それから、やはりリハビリに特化した学校ですので、今やっているのは認知検査です。体力測定というのをやってして、認知テストというのを行っています。今、認知症の人が何百万人というわけですから、テストを通じて認知症が心配される人を見つけて、その人たちには市の高齢福祉課や社協からちゃんとアプローチして、認知症が進まないようにするということが、これから大事になってくるだろうと思っています。

また、認知症の方を抱えている家族のフォローというのは本当に大変だと思います。本当に家庭が崩壊しちゃう。そういう人たちを、市がどう全体として、どう支えていくかということも、これから考えていかななくてはいけないということを感じました。以上です。

## 座長

ありがとうございました。今ご指摘の、確かに若者が名古屋駅から非常に近くて、賃料が東山線沿線に比べるとかなり安いというような、そういう利便性と賃料の安さというところで住み始めると思うのですが、確かに若者たちとボランティア団体を中心としたようなシニア層を結び付ける、そのネットワーク、コミュニティの構築というのも大前提だと思いますので、その辺は、具体的な施策で何かまとめられるようなことが出てくるといいなと思います。

地場の特産品のお話も出ましたけれども、この辺も高齢者の社会参加のところで、清須学講座、マイスター制度、こういったところで当然、農家の方なんかもたくさんいらっしゃると思いますし、様々な分野で活躍されてリタイアされているような方々もいらっしゃると思いますので、その辺は、まずはこの地域に住んでもらっている新しく域外から定住してくれているような若い世代、もしくはその子どもさんだとかそういったところを親も巻き込みながら、いろいろな知識や歴史を知ってもらうということが非常に重要かというふうに思います。

続きまして山田委員、お願いします。

## 山田委員

先ほども清須学講座とかマイスターの件、ちょっと申し上げましたけれども、私が本当に思っているのは、先ほども話がありましたけれど、知られてないというか、情報が拡散をされていて、しかも、狭域の中で存在している。これを集約する場というのが必要ではないかと思いません。

その中のひとつが清須学講座とか、例えばそのことできちんと受けられた方が核となって、

地域の中に情報発信をしていく役割を持っていただくということも、これは地道な活動ですけど、非常に必要なことだと思います。そうでないと、トータルで連携がされていないので、先ほども有機的というお話がありましたけれど、結び付いていないものですから、ご自分がやっておられても客観的な位置が測れずにやっているということが多々あると思いますし、それから、これは専門的になりますけれど、研究者の方々はいるのだけれど、どうしても他地域に存在しておられて、このエリアのことについて他地域の方が研究しているということもたくさんありますし、肝心要の地元の方まで情報が下りてないという現実も中にはあるのではないかと思いますので、これも必要だろうというふうに思います。

若者の件で今もたくさんお話がありましたけれども、私も非常に実感をしておりまして、今、デジタル情報でやり取りをやっていきますよね。これは職場の中で言っていますけれども、デジタル情報のやり取りは情報で非常に有効です。私も使っています。だけれども、コミュニケーションではないからな、と言っています。なぜかというと、五感の情報です。身振り、手振り、それから声の抑揚。この情報が本当の情報のやり取りであって、こういったものが非常に希薄になっているということですから、本当の意味での理解がされていないというふうに思います。

それから、実際に体験したり実感をしたりということが、なかなかないということは私も同感でございまして、今の世代はそういうことができずことができます。なぜか。豊かですし、動かなくても情報をどんどん取ることができるから時間つぶしができますよね。こういったものというのは、失われたものがものすごくあると思います。これも清須を理解するためには私は必要だと思っています。だから、言葉だけの理解ではなく、本当に実感する、体で感じる。そういったことも私は非常に重要だと思っていますので、これはなかなか実際に入るといろいろな課題が出てくると思いますが、きちんと趣旨に合うような形に、沿うような形で工夫をして、継続的に広めていくということも、極めて大事だと思っています。

そんなようなことで、時代背景とか、これは我々の世代からみても、彼らの若い世代に何を伝えているかと言われたら甚だ自信がないところはありますので、こういったものは自分の言葉で若い人たちに伝える、逆に若い世代も潜在的に人間の力を持っていますので、彼らの力をやはり私たちも認識する。お互いにコラボする。そういったことが情報を伝える、伝承だというふうに思っていますので、こういったものをひとつの取っかかりにして進めていけたら、清須として誇りが持てる、そのような清須になるのではないかとと思っています。

## 座長

ありがとうございました。今ご指摘のところも非常に重要だと思いますけれども、若い世代はバーチャルな空間で過ごすことがかなり当たり前になっていて、先ほど北山委員からもご指摘がありましたように、リアルな生活での触れ合いというのが乏しいというところが、それは将来にわたっても懸念されるところだと思います。この辺がシニア層と若年層というところが、リアルな空間で触れ合うというようなところを通じて、最終的には清須のシビックプライドが生まれるところまでつながると、すばらしいというふうに感じます。

それでは平野委員をお願いします。

## 平野委員

私は提言会議の方は基本目標2のところに参加させていただきましたので、その中で自分の思ったところをお話します。

まず、子育てということで出てきておりますけれど、提言会議の時には結婚支援の関係の話をしていました。今の若者の環境というところで、出会いや恋愛について、世の中がこういうふうになったというところで、世の中の流れを変えるわけにもいかないというところから、行政としても結婚支援という形で何か起こされる必要も出てきたのではないかなというふうに思います。文字としてはなくても、何かやっていただければなと思います。

それから、子育ての関係の方では、ご意見として出ていたのが、身内が近くにいないということで、孤立しがちな点です。小さいお子さん、出産してちょっとの期間だと思っておりますけれど、2～3年間のイメージかと思うのですけれど、先ほど資料で、高齢者の方と高校生の方が交流をしているということがございました。そういう意味合いで、まだ本当に小さいお子さんを持っているお母さんたちと、いわゆる子育ての経験者の方々の交流会みたいなところを考えてもらえれば、その中で、自分の義理のお母さんから言われるとカチンと来るけれども、そういう交流会の場で一般論として聞いて、自分のためになるものだけ吸収していただくということであれば、参加しやすいのかなと思いました。

それからもう1点、子育て支援センターは土日が休みなので、利用者は働いている女性が多い中で不便だというご意見です。これもやはり、行政として何かをやる時には、最終的に利用者が利用しやすいためにはどういうふうにしたらいいのかというところは、そういう目線まで下りていただかないと、実施したけれども結局不便だということになると思いますので、その辺をお考えをいただきながら実行していただければと考えます。以上です。

## 座長

ありがとうございました。今ご指摘の、かなり若い世代というところをうまく定住まで持っていくというのは、非常にハードルが高いと思うのですが、たまたま昨日、中京テレビの番組で、番組調べだったのですけれども、今どきの若い人たちにクリスマスはどう過ごすかというアンケート調査があって、結果に愕然としました。

大体10%くらいずつは「彼・彼女と2人で過ごす」、あと10%ちょっとが「友達と過ごす」です。結構グループで過ごす人が多いのかなと思ったのですが、一番多いのは、3分の2が「1人で過ごす」です。しかも、誘われても1人の方がいいというような、そういう人がそんなにいるのだということに、ちょっと驚いたのですけれども、これは、先ほどから多くの委員からご発言が出ていますけれども、オンラインのバーチャルな空間からオフラインの空間にいかにつなぐかというか、やはりそこは自分自身でも若い人たちをコントロールできない部分がありますので、そこがうまくオンラインの世界からオフラインで、しかもシニア層からいろいろ地元のことについて学ぶ機会が増えてくると、それは家庭でも非常にありがたいことだと思いますし、その誘導がうまく清須市ならできるといえることになれば、子育て環境と

しても他の自治体との差別化というか、競争力も非常に高まってくるのではないかという印象を受けました。

それでは、予定どおり2巡回りました。ちょっと時間が超過しておりますけれども、様々な多岐にわたるご意見を、全体の構成、それからそれぞれの基本目標についてもご示唆いただきましたので、事務局では、今日出た意見を踏まえ、修正できるところは修正しながら、さらにブラッシュアップをしていただきたいというふうに思います。

それでは、以上で本日の議事をすべて終了いたしましたので、進行を事務局へお返しいたします。

## 事務局

内田先生ありがとうございました。

本日いただきましたご意見、ご提案につきましては、事務局において整理させていただき、次回、第3回の会議でお示しさせていただきます数値目標やKPI等を含め、総合戦略案に反映させていきたいと考えております。次回につきましても、また忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、ここで事務局より1点お願いがございます。ただ今お手元の方に配付させていただいておりますのは、次回、第3回会議と第4回会議の日程調整表であります。本日同様の依頼文をメールでお送りいたしますので、期日までに回答の方をお願いしたいと思います。

なお、3月の会議につきましては1月下旬頃、第4回の会議は3月中・下旬頃にそれぞれ開催させていただきたいと考えております。

委員の皆様方には年明けから年度末にかけて、短い期間に2度にわたって会議への出席をお願いするという形になりますので、引き続きご協力の方をお願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」の第2回会議を終了させていただきます。

本日は、長時間、大変お疲れ様でした。

これにて閉会させていただきます。

以 上